

新しいも 50周年記念式典

平成 21 年 10 月 4 日、姉妹都市提携 50 周年を記念して、尼崎市総合文化センター「玉翔の間」で、姉妹都市提携 50 周年記念式典を開催しました。

日独国歌吹奏

記念式典は、尼崎市吹奏楽団による日独国歌の演奏で幕を開けました。



日独国歌の演奏を聴く出席者

スライド上映(姉妹都市提携 50 年の歩み)

次に、姉妹都市交流 50 年の歴史を、スライドや提携当時の映像等を通して振り返りました。



「姉妹都市提携 50 年の歩み」スライドの上映

式辞及び祝辞

スライド上映後、尼崎市・アウクスブルク市両市長、蔵本八十八尼崎市議会議長から式辞が述べられました。また、同じくアウクスブルク市の姉妹都市である長浜市の川島市長から祝辞がありました。

尼崎市長の式辞

尼崎市・アウクスブルク市姉妹都市提携 50 周年にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。本日は尼崎市とアウクスブルク市にとりまして、歴史に残る日でございます。Dr.クルト・グリーブル市長をはじめとするアウクスブルク市代表団の皆様をお迎えしまして、本市で姉妹都市提携 50 周年を共に祝う機会を得ましたことは、私にとりまして大きな喜びであり、感激の思いでいっぱいでございます。また、お忙しい中、大阪・神戸ドイツ連邦共和国ドイツ総領事館副総領事をはじめ、多くの方々にご臨席いただき心より感謝申し上げます。

本市とアウクスブルク市は、1959 年に姉妹都市提携を締結して以来、20 世紀から 21 世紀へと、大きな節目を経て今年、50 周年を迎えました。一口に 50 年と申しますが、この間、青年使節団の交換をはじめ、文化、スポーツ、教育、経済など様々な分野での交流があり、両市の市民一人一人が交流の輪を広げ、バトンをつないで今日を迎えたものでございます。

異なる風土、習慣、また言語の違いを超えて、このように、半世紀という永きにわたる友好関係を継続して築くことができましたのは、両市のお互いを大切にしたいと思う市民の熱い心であり、更には姉妹都市交流を支えてくださった多くの皆様方の努力の賜物と、心から感謝申し上げます。

本年は、姉妹都市提携 50 周年を迎えるにあたり、市民、団体、事業者の皆様が互いに連携して祝賀のイベントを数多く展開し、提携 50 周年の機運を盛り上げております。このような皆様の大きな協力により、また新たな交流が芽生えることは、私にとりましてこの上ない喜びでございます。

そして、本日、ここにお集まりの皆様方一人一人の行動により、姉妹都市交流の輪がさらに広がりますことを期待しているところで、今後は、この 50 年に及ぶ交流の長い歴史を大切にしながら、更なる友好交流をめざしてまいりたいと考えております。この姉妹都市提携 50 周年が両市の発展と、日本とドイツの一層の友好関係を促進する新たな旅立ちの日となることを祈念して式辞とさせていただきます。

平成 21 年 10 月 4 日 尼崎市長 白井 文

特別名誉市民称号贈呈式

今後の両市の交流をよりいっそう推進していただきたいという願いを込めて、アウクスブルク市長(Dr.クルト・グリーブル氏)に特別名誉市民称号を贈呈しました。



特別名誉市民称号を贈呈されたグリーブル市長

感謝状贈呈

続いて、姉妹都市交流へ多大なご尽力をいただいた2人の方に感謝状を贈呈しました。

ヤンマー株式会社創業者 山岡孫吉氏

両市の姉妹都市提携が実現したのは、故山岡孫吉氏がディーゼルエンジンの改良に成功し、感謝のしるしとして、発明者



畑山代表取締役副社長への感謝状贈呈

ディーゼル博士を顕彰する石庭苑を博士ゆかりの地アウクスブルク市に贈呈したことがきっかけです。感謝状はヤンマー株式会社畑山代表取締役副社長に受け取っていただきました。

アウクスブルク市姉妹都市交流担当

ライナー・イルスペルガー氏



イルスペルガー氏への感謝状贈呈

ライナー・イルスペルガー氏は、1984年のアウクスブルク市2000年祭の準備で姉妹都市交流に携わり、以来25年の長きにわたり、両市の姉妹都市交流に大きく貢献されました。

日本への訪問回数は合計18回にものぼります。

50周年記念品交換

アウクスブルク市から尼崎市への記念品

姉妹都市提携50周年記念品として、アウクスブルク市の市章を模ったブロンズモニュメントが尼崎市に贈られました。記念品そのものは、すでにアルカイック広場に設置し、この後の除幕式を待つばかりの状態だったので、この場では、記念品に取り付けるプレートをいただきました。(除幕式の様子は、16ページをご覧ください。)

また、交流の歴史を振り返るパネル39枚も贈られました。これらのパネルは11月に尼崎市総合文化センターでのアウクスブルク市紹介展で展示しました。

尼崎市からアウクスブルク市への記念品

姉妹都市提携50周年記念品として、尼崎市からは、世界に誇る白髪一雄画伯のリトグラフ集(籟、溪、芬、布、蕙、繁、駿)を贈呈しました。



籟(らい)



溪(けい)



芬(ふん)



布(ふ)



蕙(うん)



繁(はん)



駿(しゅん)



尼崎市からの記念品贈呈の様子

白髪 一雄 (しらが かずお)

大正13年8月12日生まれ。洋画家、抽象画家。尼崎市出身。京都市立絵画専門学校(現京都市立芸大)卒。吉原治良(じろう)に学び、昭和30年具体美術協会に参加。足を絵筆代わりにつかうアクション・ペインティングで知られた。昭和40年日本国際美術展で優秀賞。平成20年4月8日死去。83歳。作品に「水滸伝シリーズ」「丹赤(にあか)」など。

金管五重奏団の演奏

アウクスブルク金管五重奏団プラス・プアは1984年に結成された楽団で、この年、設立 25 周年を迎えています。古典音楽のバッハからブルース、南米音楽に日本の曲まで幅広い演奏を得意としており、ドイツ国内のラジオやテレビでも紹介されています。

姉妹都市提携 30 周年(1989 年)の際にも本市を訪問しています。今回の再来日でも、アウクスブルク市からの音楽のプレゼントとして、日本の童謡「赤とんぼ」等様々な曲を市内で演奏してくれました。



プラス・プアによる演奏



尼崎市・アウクスブルク市姉妹都市提携 50 周年共同宣言

姉妹都市提携 50 周年共同宣言



共同宣言に署名をするグリーブル市長と白井市長

次の 100 周年に向けて、両市のますますの発展と両市民の友情の絆が一層深まるよう、両市長が共同宣言書に署名し、日本語とドイツ語で読み上げました。



共同宣言を読み上げる両市長